

2026(令和 8)年度 中学校入試

結果分析と学習のアドバイス



雲雀丘学園中学校

目 次

■2026(令和8)年度 中学校入試

A日程午前 算 数 ・ 国 語 ・ 理 科 ・ 社 会

A日程午後 算 数 ・ 国 語

B日程 算 数 ・ 国 語

■2026(令和8)年度 中学校入試

A 日程午前

算 数

■全体講評

出題形式は例年と同様である。大問 1、大問 2 は例年通り正答率が高く、全問正解してほしい問題である。例年と比較し、大問 3 以降の (2) の正答率が低かったため、全体的にも正答率が影響したように思われる。そのため、大問 1 と大問 2 の正答率が高い問題で失点しないことが合否に大きく関わったと思われる。また、大問 4 は(2)から正答率がかなり低かったため、こういった問題については、受験生があまり対策しきれていないと思われる。

■出題主旨

1. 基本的な計算力を問う問題。
2. 小問集合。様々な単元から出題し、様々な内容の基礎がしっかりしているかを問う問題。
3. 食塩水を題材に割合を考える問題。
4. 場合の数の問題。規則性に気づけると、問題を解く上で大きなヒントになる。
5. 立体をイメージし、正確に計算できるかを問う問題。(2)は必ず正しいといえる選択肢を選ぶ問題。(3)は立体の切断したときの体積。

■対策への助言

算数の学習では、知識・思考力と正確な計算力をつけることが必要です。大問 1 は計算問題、大問 2 は小問集合、大問 3 以降は思考力を要する問題という構成は変わっていません。計算問題は他の大問に比べ正答率が高く、確実に正解した上で他の問題に取り組みましょう。様々な分野から出題されますので、日頃から「なぜそうなるのか」を理解した上で、確実な基礎力を身につけておきましょう。また、典型的な問題では答えを出すだけではなく、学習の中で考え方やなぜそうなるかを自分で説明できるようにしましょう。そうすることで、初めて見たような問題も考えることができるようになります。

■問題分析

4. 次のように並んだマス目に数字を入れていきます。マスは上から第1行，第2行，第3行，第4行，左から第1列，第2列，第3列，第4列と数えます。

	第 1 列	第 2 列	第 3 列	第 4 列
第1行				
第2行				
第3行				
第4行				

- (1) すべてのマスに1または2の数字を入れます。どの 2×2 マスにも1と2の数字が2つずつ入るように数字を入れます。下の図のように第1行の第1列，第2列，第3列，第4列のマスに1，2，1，2の数字を入れるとき，残りのすべてのマスの数字の入れ方は，何通りありますか。

ただし， 2×2 マスとは，第1行の第1，2列のマスと第2行の第1，2列のマスの4マスのような，縦2行と横2列分のとなり合っている4マスのことです。

1	2	1	2

- (2) どの 2×2 マスにも1と2の数字が2つずつ入るように数字を入れます。すべてのマスの数字の入れ方は，何通りありますか。

- (3) 次にすべてのマスに1～4のいずれかの数字を入れることを考えます。
 どの2×2マスにも1～4の数字が1つずつ入るように数字を入れます。
 下の図のように第1行の第1列に1，第1行の第2列に2の数字を入れると
 き，残りのすべてのマスの数字の入れ方は，何通りありますか。

1	2		

考え方と解き方

(1)

1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	2	1
1	2	1	2	2	1	2	1	1	2	1	2

1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
1	2	1	2	2	1	2	1	2	1	2	1
2	1	2	1	1	2	1	2	1	2	1	2
2	1	2	1	1	2	1	2	2	1	2	1

1	2	1	2	1	2	1	2
2	1	2	1	2	1	2	1
2	1	2	1	2	1	2	1
1	2	1	2	2	1	2	1

図のような8通り

正確に書ききれるかが正解できるかに直結した問である。

(2)

(1)の1と2をすべて入れ替えたマスの入れ方が8通りある。

1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1
2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	2
1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	1
2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1	2

1	1	2	2	1	2	1	1	1	2	2	1
2	2	1	1	2	1	2	2	2	1	1	2
1	1	2	2	1	2	1	1	1	2	2	1
2	2	1	1	2	1	2	2	2	1	1	2

1	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	2
2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1
1	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	2
1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	2	2

2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	1
1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2
2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	1
1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2

2	2	2	1	2	2	2	2
1	1	1	2	1	1	1	1
2	2	2	1	2	2	2	2
1	1	1	2	1	1	1	1

さらに図のような14通りがある。

以上より、 $8+8+14=30$

答え30通り

(3)

第2行の第1列に3，第2行の第2列に4の数字を入れるとき

1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
3	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4
1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	2	1
3	4	3	4	4	3	4	3	3	4	3	4

1	2	1	2	1	2	1	4	1	2	3	2
3	4	3	4	3	4	3	2	3	4	1	4
2	1	2	1	1	2	1	4	1	2	3	2
4	3	4	3	3	4	3	2	3	4	1	4

1	2	3	4
3	4	1	2
1	2	3	4
3	4	1	2

の7通りがある。

さらに、第2行の第1列に4，第2行の第2列に3の数字を入れるときを考えると、上の図の3と4を入れ替えた（図省略）7通りがある。

よって、全部で14通り

※こちらもすべての行または、すべての列が数字が交互に並ぶ性質がある。

■2026(令和8)年度 中学校入試

A 日程午前

国 語

■全体講評

文学的文章と説明的文章の計2題の出題である。文学的文章は長く感じたかもしれないが、会話の多い読みやすい内容であった。説明的文章は本校の入試問題としては標準的かやや短い長さであった。記述問題は本文で使われている語句を使ってまとめるもので、解答しやすかったと思われる。全体としてどの設問も、文章を丁寧かつ正確に読み取ることができれば、答えにたどり着けるようになっている。

■出題主旨

大問1【文学的文章】灰谷健次郎『島物語Ⅰ』より出題

都会から田舎への移住を決めた親に、最初は反発していた姉弟が、自然の中での暮らしを通して考えを変えながら成長していく物語である。本文前半は家出をした姉について会話をする家族の様子が、後半は荷物を渡しに行った弟と姉とのやり取りが、つねに弟の視点を通して描かれている。登場人物の置かれている状況や場面、心情などを会話や行動から正しく読み取らなければならない。記述問題では、「ぼく」の心情を、本文の描写に即してまとめる力が求められている。

大問2【説明的文章】原研哉『日本のデザインー美意識がつくる未来ー』より出題

日本の住空間について、「持つよりもなくすこと」でよりよくしていくことを論じた文章である。様々な事例を通して、「美しい空間」について述べられているが、難解な語句もあることから、読み取りに時間がかかったかもしれない。そのため、筆者の論の展開に従って問を用意し、設問とともに筆者の考えを読み取ることで、テーマに対する理解が深められるようになっている。

■対策への助言

文学的文章では、それぞれの場面における登場人物の心情を理解し、その変化を読み取ることが大切である。そのため、登場人物の置かれている状況や人物関係などを正しく把握し、会話文や登場人物の行動、風景描写にも注目して、そこから心情を読み取る必要がある。説明的文章では、接続詞や指示語に注意しながら本文を読み進め、具体例やたとえ表現などの役割を考えて文章全体の流れをつかみ、筆者の主張を理解しなければならない。

長い問題文に慣れるために、対策として新書5～6頁を速読する練習も効果的である。

記述問題では、解答に必要な内容や言葉は何か、それがどう関連しているかを考えて簡潔にまとめる必要がある。文として成立しているか、文と文がきちんとつながっているか、正しい文字が書けているかなどにも注意して解答を作らなければならない。

漢字や語彙力などの知識は普段から蓄えておく必要があるだろう。

■問題分析

大問一 文学的文章（本文は抜粋してあります）

「タカぼう。あんた、はじめ島へいくのを反対したやろ。その気持ち、今はどうなってるの」

「……………」

ぼくはちょっとつまった。
「はじめと今とはちがうわい」
「どちらがうの」
ねえちゃんに問いつめられて、ぼくはやけくそみたいにこたえた。
「ぼくは島のくらしが好きなんや」
「ねえちゃんもや」
⑤ えっとぼくはおどろいた。
(ほな、なんで家出したんや)

問八 ——線部⑤「えっとぼくはおどろいた」とありますが、その理由を三十字以内で説明しなさい。(、。 「」は字数に数えます。)

《解答例・解説》

「島のくらしが嫌いだと思っていた」点は解答に含めることができていたが、「家出」についての記述が抜けることで減点となる解答が多かった。直後に「ほな、なんで家出したんや」と心中表現があることから、驚きの理由から外すことはできない。解答は、「ねえちゃんは島のくらしが嫌いで家出をしたと思っていたから。」。別解は、「家出をしたくらいなのに、島の生活を好きだと言ったから。」。

大問二 説明的文章(本文は抜粋してあります)

しかし、そろそろ僕らはものを捨てなくては^④捨てることのみを「もったいない」と考えてはいけない。捨てられるものの^{ふぜい}風情に感情移入して「もったいない」と感じる心持ちにはもちろん共感できる。しかし^{ぼうだい}膨大な^{はいしゆつ}無駄を排出した結果の、^{はいき}廃棄の局面でのみ機能させるのだとしたら、その「もったいない」はやや鈍感に過ぎるかもしれない。廃棄する時では遅いのだ。もしそういう心情を働かせるなら、まずは何かを大量に生産する時に感じた方がいいし、さもないとそれを^{こうにゆう}購入する時に考えた方がいい。もったいないのは、捨てることではなく、廃棄を運命づけられた不毛なる生産が意図され、次々と実行に移されることではないか。

問六 ——線部④「捨てることのみを『もったいない』と考えてはいけない」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 捨てることだけに意識を集中していると、^{ぼうだい}廃棄の後に膨大な無駄があるということに鈍感になってしまうから。
- イ 捨てることだけに不満を言うべきではなく、必要としないものを大量に保存する状況を問題とするべきだから。
- ウ 捨てることだけに不快感を感じてしまうのは、戦後の切実な物不足の記憶によるもので仕方ないことだから。
- エ 捨てることだけに問題があるのではなく、廃棄される可能性を知らながら生産することにも問題があるから。

《解答例・解説》

「廃棄する時では遅いのだ。もしそういう心情を働かせるなら、まずは何かを大量に生産する時に感じた方がいいし」とあるため、解答はエ。後半にある問題で、他の選択肢よりやや長めの表現であったためか、誤答が多く見られた。落ち着いて、最後まで読む力が必要とされる。

■2026(令和8)年度 中学校入試

A 日程午前

理 科

■全体講評

例年通り各分野のバランスを考えて、生物、物理、化学、地学の4分野から均等配点で出題しました。難易度や問題数も各分野で偏ることがないようにしています。基本的な知識問題だけでなく、実験内容の理解とその結果の整理、与えられた文章・情報の正しい理解など、科学を扱ううえで必要とされる基礎力を問うことに重きをおいて作問しています。

各分野の正答率を比べると、地学分野における岩石の分類から岩石名を答える問題や、化学分野のピストンを押す力の変化を計算する問題の得点率が低かったです。普段何気なく目にする岩石や、学校の授業で使用する実験器具などにも興味を持ち、どのような仕組みなのか、それがどのように活用されるのかを、日頃から理解しようと努めることが必要です。これは分野に限らず、理科全体に言えることです。普段から意識して学びましょう。

■出題趣旨・講評

問題 番号	項 目	設 問
1	ものの温まり方	授業でも扱われている基本的な実験の内容をふまえ、ものの温まり方に関する問題を出題しました。(1)～(3)は伝導、(4)～(8)は対流、(9)は光の性質についての考えを応用した問題です。基礎的な問題はよくできていました。応用して考える問題で差がつかしました。答えだけを覚えるのではなく、理由も含めて理解する学習をしましょう。
2	血液の循環	血液のポンプである心臓のはたらきに関する問題です。体循環と肺循環の2つの経路を、動脈・静脈・肺動脈・肺静脈などの血管を通して、動脈血と静脈血が流れる仕組みの理解度をみました。全体によくできていました。強いて挙げれば(4)でリード文を読まずに大静脈を選んで×になる受験生が目につきました。
3	火山と岩石	火山分野が出題されたのが以外だったのか、正答率 53%と難しかったようです。特に正答率が 50%切っていたのは、軽石、天保山、ローム層、等りゅう状、石基、はん晶、はん状、でした。
4	閉じ込めた空気 や水	注射器内に閉じ込めた空気の性質を問う問題です。身近なものにも利用されているので分かりやすいかと思ったのですが、意外とできてなかったように感じました。また、ピストンを押し込む距離の計算については時間が足りなかったのか正答率は 40%を切っていました。

■問題分析

4

図1のように、空気を入れた注射器の先を、ゴム板にしっかりと押し当て、ピストンをおしました。ピストンは少しだけ押しこむことができましたが、完全におしこむことはできませんでした。

(2) 空気を入れた注射器のピストンをおしこむことができる理由として正しいものを、

次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 空気のつぶが小さくなるから
- イ 空気のつぶが減るから
- ウ 空気のつぶのすき間が小さくなるから
- エ 空気のつぶが気体から液体に変化するから

図1



次に、断面の直径が2 cmの注射器と、断面の直径が4 cmの注射器を用意し、それぞれの注射器に10 cm³の空気を閉じこめました。

(7) 閉じ込めた空気の体積を1 cm³だけ小さくするときに、断面の直径が2 cmの注射器のピストンをおしこむきよりは、断面の直径が4 cmの注射器のピストンをおしこむきよりの何倍ですか。

教科書に出てくる「閉じ込めた空気の性質」からの出題です。ちっ素や酸素など目に見えない小さい粒から構成される「空気」には隙間が存在します。ピストンを押しこむことでその隙間が小さくなります。

(2) ちっ素や酸素などの小さな粒からなる空気は、注射器に閉じ込めてピストンを押しこむことでその隙間が小さくなります。隙間が小さくなるほど、押し込むための力は大きくなります。

(3) 断面積の直径が2 cmの注射器と、4 cmの注射器とでは、断面積が4倍違います。押しこむ体積が同じなら、その距離は断面積が小さいほうが長くなります。この場合は4倍です。

■対策への助言

学びの基本は教科書にあります。基本的な現象・用語・実験手順などは教科書を通してしっかりと理解してください。また正しい理解をしておくことで、問題集で解いたことがないような問題でも対応できるようになります。問題を解くテクニックに頼らずに、普段から身のまわりの自然現象に興味を抱き、「なぜそのようになるのか」を意識して学習してください。また、理科では計算が頻繁に必要になります。算数のような複雑なものはありませんが、比例計算のような基本的なものは素早く正確にこなせるようにしましょう。

■2026(令和8)年度 中学校入試

A 日程午前

社 会

2026 年度 中学入試A 日程 分析・社会科

■全体講評

社会科として7回目の中学入試となりました。問題講評にあたり、以下の3点に留意しました。

- ① 受験者全体の平均点を65 点前後となるようにする。
(難問はないが、読解力を問う問題を多く出題する)
- ② まんべんなく全範囲から出題する。
- ③ 時事的な内容からも出題する。

■出題趣旨・講評

問題 番号	項目	設問
1	(地理) 平和から連想されること をもとに出題	戦後80年を迎えたことから、平和から連想される言葉をもとに、気候・地形・エネルギー・工業・人口などに関する基本的な内容について問う問題と、図や表の読み取りなど思考力の必要な問題を出題しました。
2	(歴史) 戦争や争いからみる歴史 をテーマとした問題	空襲の死者数や戦費に関するグラフ、史料などを活用し、知識を問う問題とグラフやデータを読み取り判断する問題をバランス良く出題しました。
3	(公民) 宝塚市の歳入と歳出から 考える地方自治について の問題	グラフを3題提示し、その読み取りを通して解答する形式で出題しています。主に税に関する問と、地方政治に関する問を出題しました。

■問題解説

大問 1

- (7) 下線部⑥に関連して、次の表は、林野面積(2020年)、林野面積率(2020年)、都道府県別パルプ・紙・紙加工品出荷額(2022年)をまとめたものです。表中のア～エは、大阪府、沖縄県、静岡県、北海道のいずれかを示しています。沖縄県にあてはまるものを、表中のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

	林野面積(千 ha)	林野面積率(%)	パルプ・紙・紙加工品(十億円)
ア	5,504	70.2	278
イ	493	63.4	861
ウ	57	30.0	342
エ	116	50.7	6

『2025データブックオブ・ザ・ワールド』より作成

■解説

都道府県の面積や人口規模をもとに、表のア～エを考えていく必要があります。

林野面積と林野面積率から、アの都道府県面積が最も広いと考え、アは北海道です。イは、パルプ・紙・紙加工品を扱う産業が盛んな静岡県です。ウとエでは、パルプ・紙・紙加工品の出荷額に大きな差がみられます。人口は大阪府の方が多いため、パルプ・紙・紙加工品の需要量が多いと考え、出荷額の大きなウが大阪府で、出荷額の少ないエは沖縄県です。よって、答えはエとなります。

◇対策への助言

社会科という科目は、用語を漢字で書けるようになることは大切です。しかし教科書にのっている内容だけを勉強するだけでは不十分です。身近な話題をもとに、一つの物事を様々な角度から捉えていく必要があります。そのためには、新聞やニュースから、関心を持った内容について、深く考えてみてください。新聞やTVのそばに、辞書や地図・地球儀を置き、気になったことはすぐに調べる習慣をつけていくと良いでしょう。

また、今年度も地理1題、歴史1題、公民1題と問題数を昨年通りの問題構成にしました。ただ単に知識を答えるのではなく、よく読み、持っている知識を使い考えて解いてほしい問題を増やしています。また、データや文章の読み取りも大切です。暗記するだけではなく、情報を処理する応用力など総合的な力をつけて欲しいと考えています。

■2026(令和8)年度 中学校入試

A 日程午後

算 数

■全体講評

出題形式は例年と同様であるが、平均点は例年よりも高くなった。解きやすい問題が例年より少し多かったことと、受験生の皆さんが問題集や過去問等でよく目にするタイプの問題をしっかりと練習し、正解された結果だろう。ただし、大問3については正答率が低かった。問題の情報量が多く、なおかつグラフからも状況を読み取る必要があり戸惑った受験生もいたであろう。問題文をよく読んで、自分で図やグラフをかいたりしてよく考えて正解にたどり着いてもらいたい。

■出題主旨

1. 基本から標準レベルの計算力を問う問題で、計算力が定着しているかを試す問題。計算の順序に注意の必要な計算、分数・小数の混ざった計算、カッコを含む式の計算等が正確にできるかを問うた。また(1)と(2)については、やみくもに計算せずに、式の特徴を捉えて計算を工夫することで、より短時間で答えが出せた。
2. 基本から標準レベルの文章題。難しい考え方は不要で、問われていることをきちんと把握できるかを問うた。
3. グラフから状況を読み取る問題。速さがこれほど頻繁に変化する問題は受験生にとっては初見だったであろう。問題文の情報も見落とさないように慎重に考える必要がある。
4. 日常生活を題材にした問題。(2)では自分の考え方が表現できるかも問うた。(3)では地道に調べる力を問うた。
5. 空間図形の問題。平面ではよくある問題（例えば台形の移動など）だが、それを空間図形に応用できるかを問うた。(4)は難問。直接立体図形の形を考えるのではなく、対称性に注目することで「直方体」と「円柱」の体積を比べればよいことに気付けるかがポイントである。

■対策への助言

算数の学習では、まずは正確な計算力を身につけることが不可欠である。その上で解法・公式などの基礎を身につけ、たくさん問題に取り組んで算数の力を伸ばしてほしい。

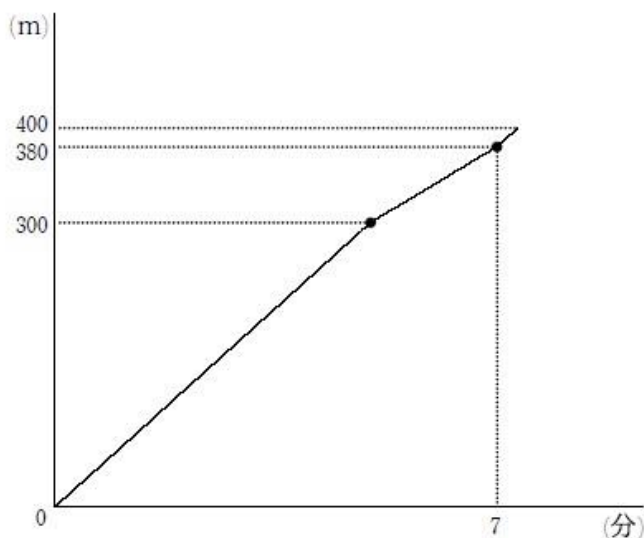
問題に取り組むときに気をつけてほしいことは、解法パターンを覚えてそれに当てはめる練習に終始しない、ということ。見たことのない問題に対しても、試行錯誤して正解を導く力を養ってもらいたい。すぐには解き方が分からない問題をじっくり考えること、正解が出せた場合であっても「なぜその考え方で答えが出るのか」根拠をきちんと考えること、それらを大事にしてほしい。

■問題分析

3. AさんとBさんが駅を同時に出発し、680 m先の雑貨屋に同時に到着しました。この道は駅から雑貨屋まで順に「平坦」「上り坂」「平坦」「下り坂」になっており、「平坦」な区間は計540 mあります。Aさんの速さは、上り坂では平坦な道の $\frac{2}{3}$ 倍に、下り坂では平坦な道の $\frac{3}{2}$ 倍になります。また雨が降るとAさんの速さは雨が降らないときの半分になります。Bさんは常に一定の速さで歩きます。

Aさんが400 m歩いたところで雨が降り始め、雑貨屋に着くまで雨は止みませんでした。

下の図は、雨が降り始めるまでのAさんの駅からの距離と出発してから時間の関係を表したグラフです。



- (1) Aさんの雨が降っていないときの平坦な道を歩く速さは分速何 m ですか。
- (2) Aさんは駅から雑貨屋まで何分間歩きましたか。
- (3) AさんとBさんが最も離れるとき、二人の間の距離は何 m ですか。

(3)について、二人の間の距離が最大になる時刻の候補は、出発してから5分、7分、 $7\frac{1}{3}$ 分のどれかであるが、AとBのグラフをかくだけでは、いつ最大になるのか判断できない。各時刻における二人の間の距離を計算して比較する。

■2026(令和8)年度 中学校入試

A 日程午後

国 語

■全体講評

説明的文章、文学的文章の大問 2 題の出題である。

説明的文章、文学的文章ともに本校の入試問題としては標準的な長さであった。説明的文章は、「生き物には心があるのか」というテーマを、多様な例を通して考察した内容である。文学的文章は、怪我のために柔道をやめることになった主人公が、「男子チア」という新しい世界へと飛び込んでいこうとする前向きな内容の文章となっている。

それぞれの出題の中に漢字・語句・文法問題および内容を問う設問が立てられている。出題形式としては記号選択問題、書きぬき問題、記述問題といったものを基本とした。また、文学的文章には会話形式で本文の読解を深める問いを出題している。2 つの大問から、20 字、35 字、50 字の長文記述を出題している。

全体としてどの設問も、文章を丁寧かつ正確に読み取ることができれば、答えにたどり着けるようになっている。

■出題主旨

大問 1【文学的文章】朝井リョウ『チア男子！！』

柔道一家に生まれ、小学校からずっと柔道を続けてきた大学 1 年生の晴希。しかし、肩を怪我してしまい柔道を辞めることにした。時を同じくして、一緒に柔道を続けてきた一馬も柔道を辞めて、晴希と新しいこと（チアダンス）を始めようと考えていた。そのことについて話し合った 2 人が、いよいよチアを始めようとしている場面である。前半は、姉が晴希が柔道をやめることを引き止めようとしている現在のことが書かれ、後半は、一馬が晴希をチアに誘う様子を振り返って書いている。

大問 2【文学的文章】

生き物は生存や繁殖のために複雑な反応を行い、それが「心」の正体だと筆者は考える。単細胞生物や植物にも、程度の差はあれ心のようなものがあるかもしれない。さらに地球全体にも生命を調整する「心」があるように思える。だから人間は自然の調和を乱さないように生きるべきだ、という主張である。具体例を通して書かれた筆者の主張をしっかりと読み取ってほしい。

■対策への助言

説明的文章では、具体例などが文章全体でどういう役割を果たしているのかを考えながら読み進める。接続詞などにも注目しながら段落ごとの関連性も考え、全体の流れを通して筆者の主張を理解したい。文学的文章では、登場人物のおかれている状況や行動などに注目し、そのときの心情を追っていく。そのためには語彙力なども身につけていきたい。

また記述問題では、問われている部分が本文のどこの部分と関わっているのかを正しく読みとり、解答に必要なポイントを考える。字数制限内に収まるよう、要約する力も必要となる。

漢字や語彙力などの知識は普段から蓄えておく必要があるだろう。

■ 問題分析

二 説明的文章（本文は抜粋）

もうひとつ俯瞰^{*ふかん}で見ると、生命体すべてに対して、管理する心のようなものがあるのか
もしれないと思うことがあります。それはたぶん、「地球の心」なんでしょうね。

⑦ 増えすぎた動物^{おそ}の数が自然に減ることがあります。人間の世界にも、飢饉^{ききん}とか大地震、
津波^{つなみ}などが襲^{おそ}うことがあります。あるいは自然災害だけでなく、人間同士が戦争^{*とうた}をしたり
します。これは何者かの意志によって淘汰^{*とうた}されてるんじゃないかと。

花壇^{かだん}にスミレを植えてきれいなお花畑^ひにしようと思ったのに、ぺんぺん草がいっぱい生
えてきたとします。ぺんぺん草は当然引っこ抜^ぬかれますよね。つまり、管理する心から見
て、調和を乱すものは間引かれてしまうのです。

このように生き物はときどき、自分よりも次元が上の、見えない存在に調整されている
んじゃないかと思えることがあるわけです。だからこそ、人間という生命体が、⑧
という花壇の中の⑨にならないように、気をつけなければいけないのではないでし
ょうか。

問九 ——線部⑦「増えすぎた動物の数が自然に減ることがあります」とありますが、筆
者はこのことをどのようにとらえていますか。「調和」、「調整」ということばを必ず
使って、解答らんのことばに続くように三十五字以内で答えなさい。

（ 、 。 記号は字数に数えます。）

《解答例・解説》

——線部の内容について、筆者がどのように「とらえているか」を問う問題である。
また「調和」、「調整」ということばを必ず使って答えるという条件を念頭に置いて解答
を考えること。

傍線部の二行後に書かれている「これは何者かの意志によって淘汰されてるんじゃない
か」というところに注目する。「増えすぎた動物」は自然に減っているのではなく、「淘
汰」（＝選別する）されている。また、傍線部の前段落に、「生命体すべてに対して、管
理する心」、「地球の心」とあることに注目する。これは「何者かの意志」の言い換えに
なっている。さらに、傍線部の六行後には「自分よりも次元が上の、見えない存在」と書
いてあり、これも「何者か」の言い換えになっている。

以上のことから、筆者は傍線部の内容を、「増えすぎた動物の数」は「自然に減る」の
ではなく、「生命体を管理する心」、「自分よりも次元が上の、見えない存在」が「淘汰し
ている」ととらえていることがわかる。このことを踏まえて、条件に合うように解答を作
ってほしい。

■2026(令和8)年度 中学校入試

B 日程

算 数

令和 8(2026)年度 中学入試 B 日程分析・算数

■全体講評

出題形式や難易度については、基本的には例年と同様である。小学校で学習してきた内容について、基礎力を確認する問題から柔軟な思考力・発想力を要求する問題まで幅広く出題した。また、思考力・発想力を要求する問題として、タブレットのバッテリー残量の増減を考える問題、立方体をくりぬいた立体の切断をする問題、階段の形に関する規則性の問題などを出題した。

計算問題については正答率が高かったが、小問集合については少し正答率が低かった。小問集合では基本をしっかりおさえるとできる問題が多いため、反復演習することが大事である。また、思考力を要する問題では、計算力を問わない問題であっても正答率が低く、文章から条件を正確に読み取り、整理する力を身につけてほしい。

■出題主旨

1. 基本から標準レベルの計算力を問う問題。基本的な四則計算、分数・小数の混合計算、カッコを含む式の計算が正確にできるかどうかを問うた。
2. 基本から標準レベルの文章題。データの修正における平均点の問題、食塩水の濃度の問題、頂点を選んでできる三角形の個数の問題、割合の問題、図形の面積の問題を出題した。三角形の個数の問題では、正確な数え上げがあまりできていなかった。
3. 階段の形に関する規則性の問題。図形の周や面積の大きさの計算に規則性を用いる。(1),(2)では規則性に気づけなくても計算量を増やせば解けるが、(3)では規則性を利用しなければ厳しい。
4. 速さの考え方を応用してバッテリー残量の増減を考える問題。はじめのバッテリー残量が分かっていないため式が立てにくい。増減の速さの比が、増減量の比になることに着目できるかを問うた。
5. 立方体をくりぬいた図形を切断する問題。切断面の形が体積を求めるヒントになる。くりぬかれた立体を切断したときに、どのような形になるかの認識能力を問うた。

■対策への助言

数学の問題を解けるようになるためには、基本問題の演習を徹底し、解法の引き出しを増やしておくことが大切です。応用問題も、条件を式にして解いていくと見たことのある式が出てきて、公式や定理の利用につながります。そのときに必要なのは、教科書レベルの知識です。まずは、問題集で良く出る形の問題を繰り返して解き、その次にそれを組み合わせて解く応用問題の練習をしてください。問題演習で解けない問題があったときは、とりあえず手を動かして、自分が知っている解き方で色々アプローチをしてみて、それでも分からなかったら答えを見てください。そうして解法の引き出しを増やしていけば、確実に解ける問題が増えていくはずです。

■問題分析

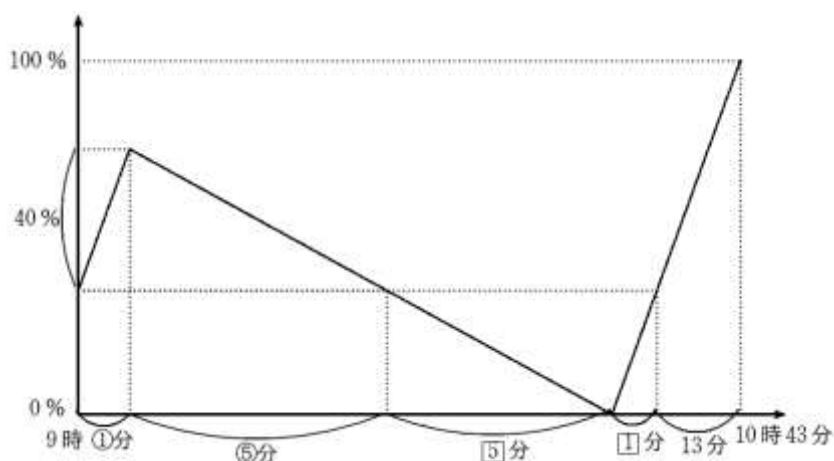
4. Aさんはタブレットを使って勉強しています。タブレットを使っているときは、一定の速さでバッテリー残量が減り、充電しているときは、一定の速さでバッテリー残量が増えます。また、充電しているときは、タブレットを使いません。バッテリー残量は、0%から100%の値をとります。

Aさんは9時ちょうどから充電をはじめました。そのまま充電を続けていれば、9時13分にバッテリー残量が100%になるはずでした。しかし、バッテリー残量がバッテリー全体の4割分増えたところで充電をやめ、その後すぐにタブレットを使いはじめました。Aさんが充電をやめてから、充電していた5倍の時間がたつと、ちょうど充電する前と同じバッテリー残量になりました。さらに使い続けた結果、バッテリー残量が0%になりました。Aさんは0%になった時点で、すぐに充電をはじめ、10時43分にバッテリー残量が100%になりました。

- (1) Aさんが充電した時間の合計は、バッテリー全体の4割を充電するのに必要な時間の何倍ですか。
- (2) Aさんが充電した時間の合計は何分ですか。
- (3) 9時の時点で、タブレットのバッテリー残量は何%ですか。

考え方と解き方

縦軸にバッテリー残量(%)、横軸に時刻をとり、バッテリー残量の増減についてのグラフをかくと下図のようになる。ただし、バッテリー全体の4割分を充電するのに必要な時間を①分、バッテリー残量が0%から9時の時点の残量まで充電するのに必要な時間を①分で表している。



- (1) 充電量の合計は、バッテリー全体の1.4倍だから、充電した時間の合計はバッテリー全体の4割を充電するのに必要な時間に対して、

$$1.4 \div 0.4 = 3.5 \text{ 倍}$$

- (2) 9時から10時43分までにすぎた時間は103分であり、上図より(⑥+①)+13分で表せるから、(⑥+①)+13=103 よって、①+①=15

これを使って、充電した時間の合計は、①+①+13=15+13=28分

- (3) バッテリー全体の4割を充電するのに必要な時間は、 $28 \div 3.5 = 8$ 分

よって、充電の速さは毎分5%である。また、バッテリー残量が0%から9時の時点の残量まで充電するのに必要な時間は、 $28 - 13 - 8 = 7$ 分だから、9時の時点のバッテリー残量は、 $5 \times 7 = 35\%$

■2026(令和8)年度 中学校入試

B 日程

国 語

■全体講評

説明的文章と文学的文章の 2 題を出題した。文学的文章がやや長めではあったが、説明的文章と合わせるとほぼ例年通りの文章量である。文学的文章は親しみやすい内容であったと思われるが、説明的文章は抽象的な内容を含み、難解に感じた受験生も多かったかもしれない。

いずれも単純な書き抜きで答える問題は少なく、25 字、30 字、35 字以内、50 字以内で説明する問題を出題した。わかりやすくまとめる力はもちろんだが、まずは本文の内容を正確に読み取る力が求められる。文章そのものを誤って読んでいると思われる解答も少なくなかった。また、傍線部の直前、直後のことばをただつなぎ合わせただけで、意味の通じない文になっている解答も多く見られた。

漢字は 5，6 年生で学習するものだけでなく、小学校 6 年間で学習する漢字を本文中から 10 問出題した。全体的によくできていたが、同訓異義の漢字を書いた誤答も見られた。多くの受験生はしっかりと見やすい文字を書いていたが、中には画数や部首があまり意識できていない乱雑な漢字も見られた。

■問題趣旨

大問一 説明的文章 光嶋裕介『建築という対話—僕はこうして家をつくる』より出題

建築家として活躍する筆者による一冊。建築家の仕事の面白さや魅力、また筆者の建築哲学が、自身の経験を交えて語り掛けるような筆致で書かれている。今回はその中から、筆者の考える「美しさ」について述べられた部分から出題した。筆者は、建築において丁寧な作業の積み重ねや目に見えない想いが、表面的ではない美しさにつながると述べる。そして、モノや空間に抱く想いは人それぞれであるのだから、個々の価値観を尊重し、批判したり優劣をつけたりしてはいけないと主張している。本文中に散りばめられた具体例が、何を説明するためのものかを整理しながら、筆者の主張を正しく読み取りたい。

大問二 文学的文章 湊かなえ『ドキュメント』

高校入学直前の事故で陸上競技を続けられなくなった「僕」が、放送部員として陸上部の練習を取材する場面。中学時代の陸上部での大会を思い出し涙する一方で、今の自分の居場所として放送部の存在を改めてとらえ直すという、「僕」のゆれ動く心情を丁寧に読み取りたい。また、問九の傍線部を考察してノートにまとめる問題は、問いに示されたノートを的確に読み取る力が求められる。(1)のⅠ・Ⅱの正答率が低かったが、(2)の本文全体から読み取れる「僕」の様子を正しく答えた上で、このノートの内容を考えると、陸上部と放送部を対比して答えることができる。小説全体に流れる主人公の心情を正しく読み取り、設問が何を求めているかをとらえて答えよう。

■対策への助言

日頃から読書に親しみ、ある程度長さのある文章を、最後まで集中して読み通せるようにしておきたい。説明的文章においては、具体例と筆者の考え・主張を関連させ、整理しながら読んでいくことが重要である。物語的文章においては、主人公の心情がどのように変化しているかを、そのきっかけとともに整理していく勉強をするとよいであろう。また、記述対策としては、本文のキーワードをつなぎ合わせて解答にしたり、キーワードが入っているかどうかだけをチェックする勉強をしたりするのではなく、自分で書いた解答がきちんと意味を伝える文になっているか、問いに答える文として成立しているかを検討してほしい。読解の基本となる漢字や語彙の力を、地道に身につけていくことも大切であるのは言うまでもない。